

2020年度  
関西学院大学ロースクール  
C日程

一般入試（法学未修者）  
特別入試（法学未修者）

論文問題

《10:00～11:30》

○開始の指示があるまで内容を見てはいけません。

## 【論文問題】

問題文を読んで、〔設問1〕および〔設問2〕に答えなさい。

### 〔設問1〕

著者は、同一語が反対の意味を持つ事例を幾つか挙げて、「どうして、同一語が反対の意味をもつ必要があるのだろうか？」(問題文の下線部A)と問いかけ、「ここにはどうやら人間存在の根本にかかわる重要な問いがひそんでいるように思われる。」(問題文の下線部B)と述べている。この問いかけに対する著者の回答を、「メッセージ」と「メタ・メッセージ」の区別にも触れながら、簡潔に要約しなさい(600字程度)。

### 〔設問2〕

著者は、コミュニケーション不調の原因をどのように考えているのか。コミュニケーション不調の例(著者の挙げる例でも良いし、あなたが考える例でも良い。)を挙げながら、その原因と対策(コミュニケーション不調にならないための対策)を説明しなさい(300字程度)。

## 問題文

「適当」というのは正確にはどういう意味であるのか明らかにせよと、以前スイスから来ていたエリザベス君に問いつめられたことがある。

「適当な答えを選べ」という場合の「適当」は、「的確な」とか「正しい」という意味だけれど、「適当にやっといてね」とか「適当なこと言うな」とかいう場合の「適当」は、「あまり的確でない」とか「あまり正しくない」という意味である。いったい日本人諸君は何ゆえに、このように同一語をして相反する意味に用いるのであるのか、そのあたりの理路を整然と論ずべし、と畳みかけられ「困」じ果ててしまった。

言われてみれば、ご指摘のとおりである。こちらもうっかり気づかずに使っていたが、たしかに「適当」というのは、ずいぶん「適当な」使われ方をしている。まことにいい加減なものですね、と言うときのこの「いい加減」も、「適正な程度」という意味ではなく、おもに「適正でない程度」という意味で用いられている。というわけで、エリザベス君には、けっきょく得心のいくようなご説明をすることができずに終わってしまった。

その後も、ずっとこの問いがひっかかっている。

A どうして、同一語が反対の意味をもつ必要があるのだろうか？ いったい誰がそのことからどのような利益を得ているというのだろうか？ そのことが、それほどに非合理的なことであるとしたら、どうしてその陋習ろうしゅうを改善しようと朝日新聞なりNHKなり文科省なりが提言してこないのか？

どうも不思議である。

しかし、そう思ってあたりを見回してみると、わたしたちが日常使っている表現のうちには、反対の意味を同時に含意している語が思いのほか多いことに気がついた。

たとえば、人称代名詞。

わたしが東京から関西に来て驚いたのは、大阪の人たちが「自分」を「あなた」という意味で用いることであつた。「ジブン、騙されてんとちゃう」というのは、「あなたは騙されているのではないか」という意味である。

『仁義なき戦い』で菅原文太が小林旭に向かって、「のうアキラ、こんなんが村岡の跡目継いだらいいじゃないの」というときの「こんなん」というのは、「こちら」というのが原義であろうが、文脈を勘案するに「あなた」の意らしく思われる。どうして「こちら」が「あなた」になるのかよくわからない。

「手前」というのもそうだ。「てまえ」と読めば一人称、「てめえ」と読むと二人称になる。リバーシブルだ。

「あなた」にしても、本来は「彼方」の意であるはずだから、目の前にいる人の呼称としてそれほど適切とも思われない。

考えるとどれも納得のいかない話である。だが、べつにこれはわたしだけがひとり

こだわっていることではなく、日常生活における「変なこと」にたいへんこだわりのあったフロイト博士[☆]も、この点に着目されて、例のごとき洞見を語られている。

多くの言語学者たちは、最も古い言葉では強い-弱い、明るい-暗い、大きい-小さいというような対立は、同じ語根によって表現されていたと主張しています(『原始言語の反対の意味』)。たとえば、エジプト語の ken は、もともと「強い」と「弱い」という二つの意味をもっていました。対話の際、このように相反する二つの意味を合わせもつ言葉を用いる時には、誤解を防ぐために、言葉の調子と身振りを加えました。また文書では、いわゆる限定詞といって、それ自体は発音しないことになっている絵を書きそえたのです。すなわち、「強い」という意味の ken の時は、文字のあとに直立している男の絵を、「弱い」という意味の ken の時は力なくかがみこんでいる男の絵を書きそえたのです。同音の原始語をわずかに変化させて、その語に含まれた相反する二つの意味をそれぞれにあらわす表記ができたのは、後代になってからのことです。★01

古代エジプト人は ken という発音を微妙にピッチや身振りを変えることで、「強い」という意味と「弱い」という意味に使い分けていたわけである。ずいぶんと七面倒なことをしたものだが、これはべつに古代エジプトだけに限った話ではなく、同じ現象は、じつは古今東西、言語のあるところではどこでも観察されるのである。

(中略)

だいぶ前に見たテレビドラマで、主人公の少年(前田耕陽)が好きな少女(中山美穂)に向かって「オレのこと好き？」と訊ねる場面があった。中山美穂が「うん、好きよ」と答えると、前田くんはその答えに納得せず、こう言った。「その『好き』じゃなくて！」

なるほど、とわたしは深く得心した(エリザベス君のご指摘以来、わたしはこういう事例にたいへんこだわる人間となったのである)。

「好き」というような、誤解の余地のありそうもないことばでさえ、言い方ひとつで、「異性として好き」という意味と、「異性として好きなわけではない」というまったく反対の意味をとることができる。しかるに、今のケースでは、少女の答えた「好き」が「人間としては好きだけど、異性としては興味がない」という意味であることを、少年はどうやって瞬時のうちに識別したのであろうか？

---

☆ ジークムント・フロイト (Sigmund Freud, 1856-1939)

ユダヤ系オーストリア人の精神科医。意識の背後に抑圧された層としての無意識を「発見」し、その治療の試みのなかで精神分析学を創始した。主著に『精神分析入門』『夢判断』など。

★01 S・フロイト『精神分析入門』、懸田克躬ほか訳、〈フロイト著作集 1〉、人文書院、1971年、145-146頁。

これはみなさんご自身の経験に照らして考えればすぐわかるはずである。

前田くんが中山さんの「好き」を「異性として興味がない」という意味であるとし、瞬のうちに判別できたのは、「好き？」という問いかけと「うん、好き」という答えのあいだの「間」が有意に短かったからである。

「オレのこと好き？」という問いに対して、「友達としては好きだけど、男として見たことないから」という場合には「うん、好きよ」。「異性として好き」という場合には「……うん、好きよ」と、こちらの場合は、「……」というわずかコンマ何秒の「ためらい」が入る。つまり、わたしたちは、問いかけに対する回答のわずかな遅速の差によって、それがエロティックな言明か非エロティックな言明であるかを識別しているのである。

ずいぶん面倒なことをするものである。

どうして、人間は「異性として好き」（「好き①」）と、「人間としては好きだが、異性としては興味がない」（「好き②」）に別の動詞を割り振ることをせずに、対立する意味を同一語のうちにとどめるに任せたのであろう？ 新語があふれるほどに発明されているのに、どうして「好き」のような、語義解釈の間違いがときに死活的に深刻な帰結をもたらす語についてだけは新語の創造をどなたも提言されないのか？

B ここにはどうやら人間存在の根本にかかわる重要な問いがひそんでいるように思われる。わたしはこの問いを次のように定式化してみたいと思う。

人間はどうして、わざわざ話を複雑にするのか？

ある人が仕事の途中で早退した。翌朝、同僚が出社してきたその人に訊ねた。

「昨日、なんで帰ったの？」

「電車で」

これはコミュニケーション不調のかなり深刻な事例である。

たしかに、「どうして帰ったの？」という問いが「帰宅の手段」にかかわる問いであるのか、「帰宅の理由」にかかわる問いであるのかは、さしあたりこの一問一答だけから判断することはできない。しかし、わたしたちは日常会話においては、このような判断をわけなくクリアしている。

どうして、わたしたちが誤答をまぬかれているのかというと、「昨日、どうして帰ったの？」という問いかけに対して、わたしたちはつねに「この人は『こう訊くことによって何を訊きたいのか？』という「問いについての問い」を返答に先だって自分に向けているからである。だからもし、このとき、たまたま職場の人びとが「帰宅の手段としてはどのような交通手段が適切であるか」というような議論を交わしている最中であつたとすれば、「電車で」が期待された正解のひとつである可能性も排除できない。

このような問いについてはいかなる回答が最適であるかの一般解は存在しない。だ

から、わたしたちはその問いが「何を訊いているのか」をそのつど文脈から推理しなければならない。

「あなたはそう訊くことで何を訊きたいのか?」「あなたはそう言うことによって何を言いたいのか?」「あなたはそうすることによって何をしたいのか?」といった種類の問いをコミュニケーション理論では「メタ・メッセージ」(上位メッセージ)と呼ぶ。

メタ・メッセージとは、メッセージの解読の仕方にかかわるメッセージのことである。

(中略)

わたしたちはふだんコミュニケーションの現場で、「メッセージのやりとり」と同時に、メッセージの解読の仕方についての「メタ・メッセージのやりとり」をおこなっている。

メッセージとメタ・メッセージの関係はいわば「暗号電報」と「暗号解読表」の関係に類比的である。暗号解読表を照合しながらでなければ暗号が解読不能であるように、コミュニケーションの場においては、メタ・メッセージについてコミュニケーション当事者間の合意が成立しないかぎり、いかなるコミュニケーションも成立しない。

このようなメタ・コミュニケーションをわたしたちはふだんほとんど無意識におこなっている。けれども、「あなたはどういうふうにメタ・メッセージを聴き取っているのか?」と正面切って問われると答えに窮してしまう。メタ・メッセージの聴き取りがあまりに自然なので、わたしたちは「どうやってそれを聴き取っているのか」をあらためて反省したりしないからである。

(中略)

ken が「大きい」と「小さい」を同時に含意し、「好き」という言明が「好き」と「それほど好きではない」を同時に含意するように人間たちが言語をつくりあげたということは、わたしたちが優先的に習得すべきコミュニケーション能力は、そのつど最適な一義的な記号を使い分けることではなく、同じ名で呼ばれるもののうちにレベルの違いを読み分けることだということをおそらくは意味している。

そのつど最適な一義的記号を使い分けることがそれほど重要であれば、「大きい」と「小さい」を同じ語であらわすような不合理なことをしたはずがない。人類が言語を手にしてから数十万年にわたって、あえてこの「不合理」なふるまいをやめずにきたのはなぜか。それは、同一レベル上での項間差異を検出する能力よりも、同一項に含まれるレベル差を検出する能力のほうが、人間が生きていくうえでより有用だからだ。

そうわたしは解釈する。

わたしたちは幼児期からこの能力の開発を集中的に訓練されている。そして、日々の生活のなかで、その能力については、じつにシビアな「テスト」が繰り返し試みられている。

たとえば、子どもたち同士がどこかに出掛ける相談をしている。そのなかのひとりが、通りがかったクラスメートに「ねえ、あなたも行く？」と声をかける。

この「ねえ、あなたも行く？」が語義通りの意味なのか、「わたしは誘う気もないのに『ねえ、あなたも行く？』と声をかけるくらいにあなたの気分を配慮しているんだから、あなたも『あなたなんか来てほしくない』というわたしの気分にちゃんと配慮してね」という意味なのかを、声をかけられた子どもは瞬時に判断しなくてはならない。

そして、「ううん、やめとく」という返答が、適切なタイミングよりコンマ一秒早すぎても、コンマ一秒遅すぎても、その時間差が別のメッセージ（「あんたとなんかと行きたくないわ」とか「変な気をつかって、いい人ぶるの、やめなさいよ」とか）を伝えてしまうリスクをも熟知していなくてはならない。

わたしたちの毎日はこのような「テスト」で充満している。厳しい試練だけれども、人間はおそらく幼児期からその訓練を積まないかぎり、社会生活を営むことができないのだ。

(中略)

わたしたちの日常は、誤解しようと思えば無限に誤解できるような危険なやりとりで充満している。ひとつのメッセージはほとんど無限の解釈可能性に開かれていると考えなければならない。その選択肢のなかの「どのあたり」に解釈を着地させるべきかをつねに適切に判断できれば、「コミュニケーション感度がよい人間」と評価されるし、誤解を繰り返せば、「洒落のわからない人間」、さらには「被害妄想」や「関係妄想」とみなされるリスクを負うことになる。

そう考えてくると、わたしたちが日々営んでいるコミュニケーションそのものの目的も、一義的なメッセージのやりとりなのか、「一義的なメッセージのやりとりができるコミュニケーション能力」を「テストする」ことなのかがだんだんわからなくなってくる。

もしかすると、「メッセージ」そのものよりも、「メッセージのやりとりがちゃんとできているかどうかのテスト」のほうをわたしたちは優先させているばかりか、そちらのほうこそがコミュニケーションの本質であるのではないだろうか？

内田 樹『死と身体——コミュニケーションの磁場』（医学書院、2004年）10～22頁より抜粋。なお、本文中の小見出しは省略した。



2020 年度入学試験 出題趣旨・解説・講評

【C 日程：未修：論文】

《出題趣旨》

---

本問の問題文は、内田樹『死と身体—コミュニケーションの磁場—』（医学書院、2004 年）10～22 頁より抜粋したものです。著者は、同一の言葉が文脈によって異なる意味（時として反対の意味）を持つのはなぜかについて考察し、著者としての見解を述べています。解答に当たっては、著者の見解を正確に理解し、それを他人に伝えるべく、的確に要約することが求められています。

《解説・講評》

---

[ 設問 1 ]

著者は、同一語が反対の意味を持つ事例を幾つか挙げて、「どうして、同一語が反対の意味をもつ必要があるのだろうか？」（問題文の下線部(1)）と問いかけ、「ここにはどうやら人間存在の根本にかかわる重要な問いがひそんでいるように思われる。」（問題文の下線部(2)）と述べています。この問いかけに対する著者の回答を、「メッセージ」と「メタ・メッセージ」の区別にも触れながら、簡潔に要約しなさい。（600 字程度）

（解答例）

同一の語が反対の意味をもつことは古今東西、言語のあるところではどこでも観察される。すなわち、言語はコミュニケーションの道具であるが、その表面的な文字どおりの意味（メッセージ）だけではなく、それが発せられる文脈、表情などに応じて異なる意味を持つ。コミュニケーションにおいては、後者、すなわちメッセージの解釈の仕方（メタ・メッセージ）を学ぶことが重要である。

同一の語が反対の意味を持つのは一見すれば不合理なように思われるが、人間社会においてこのようなことが普遍的に見られる理由は、コミュニケーション能力として、「そのつど最適な一義的な記号を使い分ける」能力より、「同じ名で呼ばれるもののうちにあるレベルの違い」を読み分ける能力のほうが、人間が生きていく上でより有用であると考えられてきたからではないか。これが著者の考える回答である。著者はこのように論じて、メッセージの表面的な意味だけではなく、メッセージに含まれている真の意味を解釈する能力（メタ・メッセージの正しい読解力）こそが、コミュニケーションにとって必要であり、メタ・メッセージについて当事者間の合意が成立することがコミュニケーションの前提ないし本質であると論じている。（約 510 字）

（講評）

同一の語が反対の意味を持つことがあるのは、我々にとっても日常経験することである。著者はその現象を、「メッセージ」（言葉の表面的な意味）と「メタ・メッセージ」（メッセージの解釈の仕方）の区別

として説明し、さらにこのような現象が古今東西普遍的に見られることの背後に「人間存在の根本にかかわる重要な問い」を見出しています。人間存在の根本にかかわる重要な問い」に対する著者の回答はかなり著者独自のものであるとも思われますが、その内容を自分なりに理解して回答することが求められています。採点に当たっては、①著者の見解を正確に理解しているのか（メッセージとメタ・メッセージの区別、コミュニケーション能力として何が重要か、人間社会において何故このようなことが生じるのか等々）だけでなく、②著者の見解を自分なりの言葉で要約しているのか、についても重視しました。というのは、答案の中には、著者の文章からの抜き書き文だけで自分の言葉がほとんどないものも見られたからです。著者の文章からの引用は一部あっても良いけれども、基本的には、自分の頭の中での理解を経て、自分の言葉で解説して欲しいと思います。

[ 設問 2 ]

著者は、コミュニケーション不調の原因をどのように考えているのか。コミュニケーション不調の例（著者の挙げる例でも良いし、あなたが考える例でも良い。）を挙げながら、その原因と対策（コミュニケーション不調にならないための対策）を説明しなさい。（300 字程度）

（解答例）

コミュニケーションの不調とは、例えば、「昨日、なんで帰ったの？」と帰宅の理由を尋ねたのに対して、「電車で」と帰宅の手段を答える場合のように、対話者の間で意味の取り違えが生じることを言う。コミュニケーションの不調が生じるのは、メッセージの出された文脈を理解せずに、メッセージの表面的な意味だけを一面的に理解することから生じる。コミュニケーションの不調に陥らないためには、メッセージの表面的な意味だけではなく、メッセージによって相手が真に言いたいことをその表情や身振り、メッセージが出された文脈などのなかで理解する（すなわち、メタ・メッセージを理解する）ことが必要である。（約 280 字）

（講評）

設問 1 で尋ねたことを前提として、設問 2 では、コミュニケーション不調の原因と対策について問うています。まず具体例を出すことを求めているので、問題文中にある著者の示す例でも良いし、自分で考えた例でも良いので、具体例を示すことが必要です。採点に当たっては、自分で考えた適切な例を回答している答案のほうを少し高く評価しました。コミュニケーション不調の原因と対策については、多くの答案がほぼ正しく回答できていました。ただ、同じような内容を述べていても、日本語として整った文章、論理的な文章と、そうではない文章とがあり、後者はそれほど高く評価できませんでした。

ちなみに、設問 1 と設問 2 の両方を通じて、答案の出来不出来は、答案の中に示されている日本語能力の差に由来する面もありました。日頃から読書に親しんでいる方は文章も上手です。読書に親しみ、論理的な文章を書けるように心がけて下さい。